

芸術文化学部(芸術文化学科)の3つのポリシー

【 学士(芸術文化学) 】

大学の目的 (学則 第3条)		学部(学科)の教育研究上の目的 (学部規則等から抜粋)	
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>		<p>本学部は、芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようと自発的に行動する意欲的な人材の育成を目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>【卒業認定・学位授与方針】 芸術文化学部は、芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようと自発的に行動する意欲的な人材の育成を目的とする。 本学部では、この目的に基づいて、芸術文化の「つくり手」(創造的活動を通して社会に豊かさを供給できる人材)、「つかい手」(既存のもの、こと、空間を使いこなせる人材)、「つなぎ手」(様々な要素をつなげて、新たな価値を提案できる人材)として、社会の調和的発展に意欲的に貢献する態度を身に付け、以下に示す学修成果を上げた者に学士(芸術文化学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 芸術文化学部では、学位授与方針に基づき、自然・社会・文化・人間について幅広く学ぶための教養教育科目と、美術、工芸、デザイン、建築、キュレーションに関する専門を学ぶ専門教育科目とで構成し、体系的にカリキュラムを編成する。 専門教育科目は、基礎的な科目とコースの専門に特化した科目で編成し、学生が芸術文化に関する複眼的な視点を持てるよう、コースを横断させた融合教育を行う。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・芸術文化学部では、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、アクティブラーニングやPBL(問題解決型学修)、地域と連携した実践教育等を実施する。</p> <p>・初年次教育として、教養教育科目とともに、最低限必要な知識の修得と専門分野における学修への動機付けを目的とした授業を実施する。</p> <p>・初年次から3年次にかけて芸術文化に共通した基礎的知識や技術を学ぶための基礎的な専門教育科目の授業を実施する。</p> <p>・2年次に4コース(美術・工芸コース、デザインコース、建築デザインコース、地域キュレーションコース)のいずれかに所属し、コースの専門に特化した科目を漸増させ、専門的な知識、技術についての学修を実施する。</p> <p>・3年次には、2年次に続いて、より専門的な知識、技術についての学修を実施するとともに、身に付けた知識や技術を活かした課題発見・解決型や地域志向の実践的学修を実施する。</p> <p>・4年次には各教員の指導の下、更に深い専門分野についての学修を実施するとともに、卒業研究・制作による学修を実施する。</p>	<p>【入学者受入れ方針】 芸術文化に関心があり、美術、工芸、デザイン、建築、キュレーションに対する学修意欲を持ち、社会の調和的発展に貢献しようとする高い志を持つ者を求める。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般入試(前期日程) 大学入試センター試験では高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、個別学力検査では「実技検査(鉛筆デッサン)」又は「小論文」を課す。「実技検査(鉛筆デッサン)」では観察力、構成力及び基礎描写力を評価し、「小論文」では論理的思考力、文章理解・表現力及び問題発見力を評価する。</p> <p>一般入試(後期日程) 大学入試センター試験では高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、個別学力検査では「実技検査(鉛筆デッサン)」又は「小論文」を課す。「実技検査(鉛筆デッサン)」では観察力、構成力及び基礎描写力を評価し、「小論文」では論理的思考力、文章理解・表現力、問題発見力及び解決のための提案力を評価する。</p> <p>特別入試(推薦入試、帰国生徒入試、社会人入試) 「実技検査(鉛筆デッサン)」 「面接」又は「小論文」「面接」を課す。「実技検査(鉛筆デッサン)」では観察力及び基礎描写力を評価し、「小論文」では論理的思考力及び文章理解・表現力を評価する。「面接」では勉学に対する意欲及びコミュニケーション能力を評価する。</p> <p>私費外国人留学生入試 日本留学試験では、日本語力、論理的思考力及び基礎学力を評価する。 本学部が実施する検査等では、「面接」「実技(鉛筆デッサン)」又は「面接」を課す。「面接」では学修意欲、日本語能力及び基礎的な英語能力を評価し、「実技(鉛筆デッサン)」では観察力、構成力及び基礎描写力を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 高等学校等で履修する教科・科目について、教科書で学習する基礎的な学力を身に付けておくこと。また、デッサンによる表現、構成、観察の基礎、あるいは文章の読解と論理的思考・表現について学習しておくこと。さらに各種芸術の創作や鑑賞を通して、基礎的な造形力や豊かな感性を育てていることが望ましい。</p>	
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	
幅広い知識	<p>【学修成果】 自然・社会・文化・人間について幅広い知識を持ち、芸術文化を社会に活かす能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 多分野科目の横断的修得</p>	<p>【学修内容】 教養教育において、自然・社会・文化・人間について幅広い知識を得るため、多分野の科目を実施する。 初期の専門的な学修段階として、基礎的な専門教育科目を実施し、4つのコース全てに関連する内容を融合的に学ぶ。</p> <p>【学修方法】 多分野の教養教育科目をバランスよく履修し、幅広い知識を修得する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験、提出作品・レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	
専門的学識	<p>【学修成果】 美術、工芸、デザイン、建築、キュレーションに関わる専門的知識や技術を持ち、芸術文化の発展に寄与できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 芸術文化の専門的知識・技術に関わる科目の修得</p>	<p>【学修内容】 専門教育においては、初年次における最低限必要な知識の修得と専門分野における学修への動機付けを目的とした授業を実施する。最初の専門的な学修段階として、基礎的な専門教育科目を実施し、4つのコース全てに関連する内容を融合的に学ぶ。 より専門的な職業人としての能力を発揮するために、「建築士試験受験資格」「学芸員資格」「教員免許(美術)」などを取得できるカリキュラムを編成するほか、インターンシップなど各種キャリア教育を実施する。 より高度な専門性を目指す学生に対しては、大学院教育と接続する高度な教育、学修指導を行う。</p> <p>【学修方法】 基礎的な専門教育科目は1年次から履修し、専門教育科目の理解を深める土壌を養う。2年次からは、所属するコースにおいて専門的学識を深める。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験、提出作品・レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	
問題発見・解決力	<p>【学修成果】 芸術文化に関わる知識・技術・感性に基づく創造的思考力を発揮し、自ら問題を発見・分析して心豊かな社会を実現するためのものやことを創り出す能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 芸術文化に関する課題発見力、調査分析力、発想力、企画提案力</p>	<p>【学修内容】 創造的思考力の基礎となる芸術文化の感性・知識・技術についての学修を実施する。自ら課題を発見し、調査分析、発想、企画提案を行う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 問題発見から調査分析、企画の発想・提案のプロセスを学生が主体的に実践する、能動的学修を取り入れ、問題発見・解決力を涵養する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験、提出作品・レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	
		【求める資質・能力】	
		<p>【求める資質・能力】 自然・社会・文化・人間について幅広い関心を持っていること。 高等学校卒業レベルの基礎的学力・知識を有していること。</p>	
		<p>【求める資質・能力】 美術、工芸、デザイン、建築、キュレーションに高い関心を持っていること。 高等学校卒業レベルの基礎的学力・知識を有していること。</p>	
		<p>【求める資質・能力】 身の回りの問題について、日常から幅広く関心を持っていること。</p>	

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】	【学修内容, 学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>社会貢献力</p> <p>【学修成果】 社会の一員として自らの役割を認識し、倫理観を持って主体的に行動するとともに、地域社会の活性化や問題解決に芸術文化を活かして実践的に貢献する能力と責任感を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 安全衛生, 研究倫理に関する理解, グループワークの実践, 長期間の研究・制作における自己管理, 地域課題解決への取り組み</p>	<p>【学修内容】 地域社会の活性化や問題解決に、芸術文化を活かして実践的に貢献する能力と責任感を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 地域に関わる教育を通じて、つくり手・つかい手・つなぎ手の立場を理解させ、社会貢献力を涵養する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験, 提出作品・レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 社会の問題について日常から幅広く関心を持ち、問題解決に貢献しようという意欲を有していること。</p>
<p>コミュニケーション能力</p> <p>【学修成果】 他者の考えを理解し、自らも情報発信する能力を身に付けている。また、適切な表現手段や言語を使い、多様な人々と意思疎通し協働する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 プレゼンテーション能力, 視覚的表現能力, 情報リテラシー, ディスカッション能力, ICTを含む情報発信能力</p>	<p>【学修内容】 地域社会の問題解決に芸術文化を活かし、様々な能力・個性・意見を持つ他者との関わりの中で、実践的に貢献する態度や能力を身に付ける。 国際的な視点から芸術文化を学ぶために外国語教育を充実させ、学術交流協定を結ぶ海外の大学等へ留学する機会を提供する。</p> <p>【学修方法】 多様な人々との協働により、成果を適切な表現手段で発信し、意思疎通する能力を身に付けるため、グループワークやプレゼンテーションなどを取り入れた学修を実施することで、コミュニケーション能力を涵養する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験, 提出作品・レポート等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 多様な人々と意思疎通し、協働する態度を有していること。</p>